



Asian Productivity Organization “The APO in the News”

Name of publication: Nokei Shimpo (16 July 2018, Japan)

Page: 2

持続可能な生産性サミット

未来の食料の議論も

アジア生産性機構は10日、都内の帝国ホテルで、「持続可能な生産性サミット」を開催した。同サミットは、今後の社会や生産性に大きな影響を与える革新的な技術やトレンドを紹介し、将来の戦略を考える上での指針提示を目的としており、農業分野では、「未来の食料」と題して、米国のア

ンドリユー・W・ブレンターン氏がプレゼンテーションを行った。サミットでは最初に同

機構のサンティ・カノクタナポーン事務局長が挨拶。今回のサミットの意義を語り、熱心な検討を求めた。また外務省国際協力局の増島稔審議官が歓迎の言葉を述べた。

その後、米国のウィリアム・D・エガーズ氏が基調講演。今後の技術革新を見通し、大きな変化の波が訪れているとし、

その対処等についての見解を話した。

引き続き本会議に入り、プレゼンテーションが4名から行われた。

このうち、未来の食料に関して話したブレンターン氏は、今後の人口増加に応じて食料増産が必要とされることを指摘しつつ、その制約要因も多いいことを述べ、食料生産の効率化がICTなどにより進められていくことを紹介。しかし、動物性タンパクの生産には問題があり、これまでとはやり方を変えていかななくてはならないと強調。自身が開発している昆虫（コオロギ）を粉砕してタンパク源として利用していくことも解決策の二方法であると語った。

将来の動向を検討した持続可能な生産性サミット